



王一だより

令2元年12月号
北区立王子第一小学校
校長 荒木 康子

教育目標 仲良く助け合う子 身体をきたえ元気な子 よく考え最後までやりぬく子 親切で礼儀正しい子

年末寸描 ～育つ逞しさ～

校長 荒木 康子

12月ともなると、日に日に冬の訪れを感じます。今年のカレンダーも残すところあと一枚となりました。今年は、いつも以上に夏が終わってから時の流れがはやくに感じられます。

思えば、昨年冬からコロナ対応が始まり、間もなく1年を迎えようとしています。前年度の3月から休校、6月から分散登校を経て通常登校となり、約半年が過ぎようとしています。

分散登校初日、前半後半に分け「新しい学校生活様式」について養護教諭から児童に向けて校内放送で指導したことが、遠い前のことのように感じます。それだけ、この半年間は通常の数倍ほどの重みのある学校生活であった気がします。

そして、コロナ禍の中、学校での子供たちの健康行動に様々な変化をもたらしました。

① 家庭での体温測定の継続

登校後、体温チェックカードを担任に提出することから一日が始まります。教員は、毎朝一人一人の子供の体調を確認することから始めています。

② せっけんによる手洗いの継続

せっけんによる手洗いは以前から指導していましたが、せっけんや消毒用アルコールの補充の速度が桁違いに速いことから、手の消毒、清潔の意識が高まっていることが分かります（一時、校庭の固形せっけんをカラスに奪われる事件あり）。

③ マスクの着用、ソーシャルディスタンス（3つの密を避ける）の継続

学校という集団生活には常にマスク着用が原則です。人との間隔が十分かどうか、校庭での運動時の着脱等、子供たち自らがマスクの着脱TPOを身に付けてきています。また、換気の大切さも理解しています。自ら上着の着脱で温度調整ができるようになることが今後の課題です。

④ 給食での注意の継続

給食の配膳での配慮や全員が同じ方向を向き静かに食事をする習慣も身に付いています。毎日、楽しいお昼の放送を制作している放送委員会に感謝です。



どんな環境であっても子供はその環境の中で育つ逞しさをもっています。改めて、大人こそ見習うべき日々を送っている子供たち、学校の対応に理解と協力をしていただいている保護者の皆様、温かく見守ってくださっている地域の方々に心から感謝しております。

これからも、これらの健康行動のいくつかは「新しい学校生活様式」として継続していく一方でインフルエンザや感染症胃腸炎などへの対応を考えておく季節に入ってきました。

健康によいとされる行動についての知識を得て、その行動をとることが自分の健康にとって重要だと意識が高まったときに行動は変わると言われています。

まさにこの半年間、日々実践してきたことです。改めて、日頃より保健学習にしっかり取り組むことの重要性を感じています。新しき年を迎える準備にも「子供の育ち」と「健康・安全」を最優先に考えていきます。